

№4 「世界記憶遺産活用・PR事業」

担当課	(資料に基づき事業説明)
委員	平成23年5月25日に登録されて以来、これだけの調査、検討委員会を設置して事業を進めてきた推進室に感謝している。P39の平成23年度、24年度で事業費が上がっているのは当然だと思うが、今後予想される観光経済的に県立大学との連携を含めて、もっと事業内容を拡大していく方向性が強くなっていくのではないと思う。予算的に拡大するとするならば、内容を拡大するためにどのくらいの予算がいるのか、予測的なものはあるのか。
担当課	検討結果報告書を受けて推進計画を策定している。その中でも推進計画が固まっていないので、はっきりした数字は明確ではないが、検討結果報告書の中にも記憶遺産センターの整備や受入れ環境の整備で、道路の案内サインの整備なども必要だと指摘をされているので、そのようなものに関しては予算の増加があるのではないかと認識している。
委員	山本作兵衛氏の絵を見に来訪された方のリピート率はどのくらいか。
担当課	統計を取っていない。
委員	紙の「質」の問題で保存をしっかりとやっていかなければならないと聞いた。だからといってレプリカでは見に行く意味がないので、そのようなバランスはどのような感じで進んでいるのか。
担当課	山本作兵衛氏の絵は、西洋紙で酸性紙を使っているので、非常に劣化が進んでおり、劣化についての研究自体も進んでいないということで、九州国立博物館にお願いして、劣化状況などを調査して、的確な保存をやるという作業を行っている。原画を公開してほしいという声も多々あるが、記憶遺産を伝えていくということに目標を置いており、まずは保存からということで、事業を行っていきたいと考えている。
委員	絵や世界遺産の観光というのは、リピート率が高くないような気がする。他にも観光スポットがある中で、温泉やグルメ、自然などは何回も足を運ぶケースがあるが、このような世界遺産や絵画などは、1回行ったら次はどうかということが気になる。「一見さん」をどのように取り込むか、この部署だけでなく、他の観光協会との連携を含めたところで検討しなければならない。それを視野に入れたうえでのPR事業と世界記憶遺産の保存にかかるコスト、海外から来られる方のインフラ整備等を含めてバランスをとっていかなければ、勢いに任せてやってしまうと後で大変なことになると思う。
委員	世界記憶遺産ということで、田川市の活性化に大いに貢献していると思う。平成24年度の予算の中で、人件費7人ということで、嘱託、臨時職員含めて7人ということだが、推進計画を作ったりするだけでなく、実際に保存の作業など具体的にはどのようなことをしているのか。
担当課	当室としては、推進計画を策定するのはもちろんだが、記録文書の委員会の運営等、絵画に書かれている文章の英訳、著作権がかかっているものの利用許可の事務などを行っている。
委員	P45で「将来的な活用イメージの全体像」を載せているが、これを見ると膨大な事業費がかかると思われるが、将来的な事業費の見通しは現在立てていないという理解でよいのか。

担当課	まだ全体像ができあがっていないので、全体事業費についても算定は行っていない。民間等活用できることもあるので、そのようなところも今後検討していきたいと考えている。
委員	「シティプロモーション事業」との関係はどうなっているのか。
担当課	「シティプロモーション事業」の担当課である総合政策課の説明でもあったように、「シティプロモーション事業」の中にいくつか柱があり、その中の交流人口の増に向けたシティプロモーション活動がある。これについては今後の取組と合致するところがあると考えているが、推進計画の中の実施計画を作っている段階であるので、そのような連携策を具体的に形作りながら実施計画を作っていきたい。現在の取組の中で、そのような連携を行いながら事業を行ったということは現時点ではない。
委員	今後、「シティプロモーション事業」で実施する事業があるということか。
担当課	現時点で他に対して情報発信しているのは、基本的には拠点が田川である。そこで、1つの方向性として考えているのは、これからは大都市圏や旧産炭地などに出向いて情報発信を強く行っていかなければ、田川市に来訪者を呼び込むことは難しいだろうと考えているので、そのような積極的な情報PRをシティプロモーションと連携を深めながらやっていきたいと考えている。
委員	P38の目的、目標に「山本作兵衛氏をはじめとする炭坑遺産・・・」とあるが、世界記憶遺産で忙しいのは分かるが、炭坑記録画とその他の炭坑遺産を関係付けて、両方とも上手く保存して関係させながら活用するという具体策は何かあるのか。
担当課	田川の炭坑の歴史は昭和45年に閉山し終息したが、現在に至るまでソフト、ハードともに炭坑文化遺産が多岐にわたって受け継がれていると考えている。その中でも大きなものとして、山本作兵衛コレクション、それと合わせて炭坑節も今まで守ってきて、次世代へ受け継いでいくべき無形文化遺産であると考えている。その他、検討の対象としているのは、23坑あった中の1つ、今の石炭歴史博物館の付近に「斜坑」が埋まった状態になっている。例えば、「斜坑」の坑口や坑道がどうなっているかの調査を行い、可能であれば、来訪者の方に見ていただき五感で炭坑を感じていただくという取組は、山本作兵衛コレクションの背景となる筑豊炭田を感じていただき、学んでいただく大事な体験場所になるだろうと考えており、幅広い視点で取り組んでいきたいと考えている。
小委員長	「斜坑」の一般公開は、魅力的なものだと思う。山本作兵衛氏を含め、炭坑遺産を田川市として主体的に取り組むべきと思うが、田川市だけでは財政的な意味で十分な取組ができないのではないかと懸念もあるが、調書の中で国や県の財政支援を要望していくという記述があるが、戦略的な取組や周辺の市町村、関係団体等と連携していかに働きかけていくか、そのあたりの取組はどうか。
担当課	山本作兵衛コレクションは697点あるが、そのうち589点が絵画になる。山本作兵衛は、沢山の絵を描いて多くの方々に寄贈しているため、個人、官公庁など様々な団体が持っており、絵が広範にわたって所有されている。世界記憶遺産に登録されたものと同様なものが、周りの団体や地域に現存している。山本作兵衛コレクションの絵を見て帰ってもらうのではなく、背景となる筑豊炭田、炭坑がどのようなものなのか、炭坑を通じて田川がどのような風土で、どのような気質の地域であるのか感じてもらう必要がある。筑豊炭田の象徴的に現存する施設があり、それは田川市だけではなく、筑豊地域全域にそのよう

	<p>なものが残っているのです、今、指摘があった世界記憶遺産を活用するにあたっては、いかに他の地域と連携を深めていくということが鍵になると思う。第一に考えているのは、少なくとも田川地域1市6町1村で連携を深めながら活用PR事業を今後推進していき、それをさらに発展させ、最終的には飯塚や直方など筑豊地域の中で連携を深めたい。そのような視点を持って実施計画を策定している。</p>
小委員長	<p>財政的な強化を考えた場合、それでは不十分な所もあると思うが、事業を進めていくにあたって、財政的な取組を強化していく取組や見通しは立っているのか。</p>
担当課	<p>これから多額の資金が必要になるのは間違いないが、センター1つでもかなりの金額になる。ソフト事業の充実を今後図っていきたいと思うが、その前提となるハードの整備も今後必要に応じて進めていかなければならない。相当な金額が必要となってくると思うが、現時点で国の補助制度について、ハード整備に関する補助がかなり薄くなっており、なかなか手厚い財政支援を受けられないような形になっている。それでも今後、国や県に広域的な地域振興の視点で財政的な支援を含む要望をしていきたいと思うが、他の自治体とそのような財源を負担し合っているとあったところまでの取組や協議は進んでいないというのが現状。</p>
委員	<p>「劣化しやすい西洋紙を使用している」とあるが、保存や修復をする際は、どこでどのようにするのか。</p>
担当課	<p>状態調査とそれに伴う修復については、文化財保存科学の観点を用いながら行う必要がある。そのためには、田川市にそれに係る人員的な体制がなく、現時点で文化財保存科学に関する学芸員はおらず、場所や設備も必要になってくる。今、取組として行っているのは、九州国立博物館の施設、設備を活用させていただきながら、文化財保存科学の視点に立ったNPO団体があり、そこに委託を行い今年度から2～3年の期間を掛けた状態調査や修復等の作業を行うことにしている。これらの取組については、世界記憶遺産の1つのポイントになると思うが、今回、申請を行って登録していただいた697点は、いずれも文化財保護法に基づく国宝や重要文化財ではない。よって、そのような法に基づく文化庁、文科省からの補助は受けられない状況ではあるが、文化庁の「ミュージアム活性化支援事業」という補助事業を活用することができるようになったので、その補助事業を活用しながら今後進めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>P39の事業費の中に「委託料」とあるのは、NPO団体に委託する等の費用になるのか。</p>
担当課	<p>そうではない。複雑な制度になっているが、「ミュージアム活性化支援事業」という補助事業の制度上、官公庁に対して直接補助ができないので、補助事業者という実施主体が別個に立ち上がって、その事業主体に対して補助を行うという制度になっている。文化庁からの補助は田川市にではなく、その補助事業者、民間団体になるが、その業者が補助を受けるとのことになっているので、状態調査や修復作業などは、田川市が直接行うのではなく、民間団体に行っていただくことになる。</p>
委員	<p>世界記憶遺産に認定された場合、保存するという義務が発生する。海外から来る人たちが見られるような整備をしなければならないということはないのか。</p>
担当課	<p>「保存第一」ということは当然求められているが、ユネスコが求めているのは原資料の活用ではなく、原資料は保存し、デジタルデータやレプリカを大いに活用していくこととアクセス整備を行うこと。直接、足を運んでいただいた時に全て日本語表記になっては</p>

	いけないので、少なくとも英語表記をする。山本作兵衛氏の描いた絵には、ほぼ全てに説明書きがされている。当然日本語なので、この字はどのような内容なのかということ海外の方が理解できるよう、英語の表記が必要と考えている。「アクセス性」ということで言うと、直接足を運ばなくても、それぞれの国に住んでいる場所でアクセスできる環境整備がインターネット上でも必要になると考えている。
委員	世界記憶遺産になった時の義務的な部分のコストを賄って行く中で、県や国の補助金が少ないということで、その辺りの収支のバランスが見えない部分で不安になるが、収支のバランスについてはどうなのか。
担当課	やらなければならないことは非常に沢山あるが、最も重要な課題は、それらの財源をどのように手立てしていくのかということで、現行制度上、獲得できる財源は限られている。いかに今後、民間資金、国、県などの財源手立てを講じることができるのか、一生懸命努めていきたい。
委員	現在山本作兵衛コレクションの紹介などと関係して、観光事業者との連携は具体的に進められているのか。
担当課	観光事業者というのは旅行代理店や旅行会社のことか。
委員	旅行代理店や交通・バス事業者やホテル業などとは連携があるのか。
担当課	世界記憶遺産推進室が今年4月1日付けで独立した機関になっているが、昨年度までは総合政策課内のシティプロモーション担当課だった。その時に県内の旅行代理店を回って、バスツアーの誘致という取組を行った実績はある。どうしてもバスツアー、団体客となると「原画を見たい」との要望があったので、昨年度（H23）9月17日から3月17日まで、6ヶ月間にわたって、計6回の原画展を行い、それに合わせてバスツアーの誘致を図ったが、今年度（H24）から資料の保存を考え、春と秋の年2回の原画展を考えているので、今年度に入ってから誘致の取組ができていないということはある。ホテルについては、昨年度（H23）来館者にアンケート調査を取った。その時に日帰りのツアーなのか、宿泊を伴うツアーなのかという質問をしたが、大半が日帰りの方だった。田川市の地域の現状は、時代を重ねるごとに宿泊施設が少なくなっている。そこも今後の課題になると思うが、今のバスツアーの中身を見ると、ほとんどが飯塚市の伊藤伝衛門邸や田川市の中村美術館、石炭・歴史博物館を組み合わせた日帰りのツアーなので、現時点での取組でホテル業者と連携したイベントなどには、まだ至っていない。
委員	<b>【評価内容に関するコメント】</b> 「1 拡充（2）事業の手法、内容の拡充」とした。世界記憶遺産に登録されたのは日本でも初めてのことで、手探りの状態で進められていると思うが、収支のバランスが明確に見えてこないというのは不安になってくる。シンポジウムなどを繰り返し、安定した形に持って行って田川の資源の1つとして滞在型の観光につなげていけるような体制を早く作ってほしい。早くインフラを整えた上で安定した形にしたいと考えている。
委員	<b>【評価内容に関するコメント】</b> 「1 拡充（2）事業の手法、内容の拡充」「2 見直し（2）事業内容、手法の見直し、⑤手段の追加、改善」とした。担当課の自己評価は「現行どおり」としているが、集客するためには「現行どおり」という評価は情けないかと思う。今は沢山来ているが、いつまで続くかというのはわからない。そのためには、「事業を拡充した

	<p>が、人が来なかった」となれば、今までの苦労は何だったのかと思う。観光と経済効果がどのようになっているかということ想定しないと、いくら拡充してもプラス、マイナスが見えた段階でやっていかなければ意味がないのではないかと。集客に対するPR隊は、夕張があのような状況になったときに全国行脚してまわっていたが、田川も全国にPRしていくというのは時間的に大変だと思うが、それを行政がやるのではなくて民間を活用するという方法でできないのだろうか。そうすればコストもかからず、そのような募集をするとな案外、市民は喜んで行くのではないかと。そのような意味での全国PR隊等に民間の活用をしてほしい。例えば、中央中学校の生徒が来訪者用に地図を点々と作っていったということは、子供たちの意識づくりを含めてとても素晴らしいことだと思う。大人である私たち自身もそのような活用をされると、喜んで参加する方も多いのではないかと。なので、全国に行脚してほしい。保存、修復等についてコストが高くなるのは当然で、その後をどうしていくかということについては、検討が必要になるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「2見直し(2)事業内容、手法の見直し、⑤手段の追加、改善」とした。この事業自体大きな成果をもたらしているが、常に事業内容は見直して行くべきではないか。従来とは違ったやり方があるのではないかと。集客をするため様々なイベントや検討会議等も繰り返して、もっと効果的な方法もあるのではないかと。保存については急務であるので急がなければならないのではないかと。炭坑遺産は山本作兵衛氏だけでなく、他の施設とも合わせて取り組むというやり方も、もっと積極的にしていいのではないかと考えている。</p>
<p>委員</p>	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「2見直し(2)事業内容、手法の見直し、⑤手段の追加、改善」とした。大きくは3つで、まず、炭坑記録画が手一杯で、まだまだすることがあるというのはわかるが、その他の遺産や記録を保存したり、整理したりするということに関連させながら、両方を上手く活用して、将来の見通しを具体的に提示していただけたら良いと思う。2つ目に、田川市外に対する情報提供の話もあったが、情報提供先の選択を具体的にやってはどうかと思う。炭坑なので山本作兵衛氏の記録画に関して言うと、興味を持つ人は特定しやすいのではないかと。ねらいを定め、ポイントを絞って情報を提供してもよいのではないかと。推進室は保存やPRが中心になってくると思うので、観光については総合政策課、PRについてはシティプロモーションと一緒にやれると思うが、他の課との連携をしなければ進まないと思うので、できるだけ具体的に示していかなければならないのではないかと。3つ目に、事業費についてはその時々で十分に検討してほしい。</p>
<p>小委員長</p>	<p><b>【評価内容に関するコメント】</b>「1拡充(2)事業の手法、内容の拡充」とした。この事業は田川市、田川地域独自の資産を活用して、市民の愛着というのを増していく。それが地域活性化につながっていくという可能性もある事業、色々な可能性を大きく秘めた事業であるので、効果的な取組を行っていくことを大いに期待している。今、事業計画を立てているということだが、平成23年度の報告書に挙げられた事業について、優先順位等をきちんと行って、戦略的計画的にやっていくことが必要。この中で取り組まなくてよいものは取り組まず、統合できるものは統合していく。この構想の部分にも記されているが、これをやることによる地域の経済的な効果は過度に期待することはできないと思う。最初からあまり大きな経済的な効果に重要なところがあるのではなくて、目に見えない経済的な価値に表れないような部分に非常に効果があるというようなことを強く打ち出して、そ</p>

	<p>の前提で市民に理解を得ていくべきだと考える。経済効果は口で言うのは簡単だが、本当にあるのかと考えた場合、非常に難しい部分があるということも前提に、市民にきちんと説明をした方がよい。同時に市民に対して、この事業を進めていくことで財政的に非常に大きな負荷が市にかかり、これに集中することにより、他の事業が薄くなる可能性があるという理解を同時に得ていく必要がある。その上でこれを拡充していこうということであれば、財源調達、確保についてあらゆる努力を行ってほしいと考えている。</p>
<p><b>まとめ 小委員長</b></p>	<p>意見の傾向として、事業手法や内容をより充実させていく方向で「拡充」、「改善」していくというものが多かった。地域にとって非常に重要な事業ではあるが、まだよくわからない事業であるという中で、いかに財政的な負担と考えられる効果のバランスをどうとっていくのか、市民にいかに理解を得ていくのか、地域の民間事業者や市民の方といかに連携をとっていくのかということについて委員から意見があった。</p>
<p><b>担当課</b></p>	<p>財源の調達、市民の理解については今後、推進計画を作り、実行していく上で非常に大切だと認識している。いただいた意見は、今後の事業の実施にあたって最大限生かせるように推進していきたいと思う。</p>